

第 1 回ビジョンセミナー 『国土形成計画とランドスケープ』

日時 : 平成 19 年 6 月 19 日 (火) 18:30 - 21:00
会場 : (社)ランドスケープコンサルタンツ協会 会議室
主催 : (社)ランドスケープコンサルタンツ協会 未来委員会ビジョン部会

趣 旨

国土形成計画の大意が、昨年 11 月公表の「国土審議会計画部会中間とりまとめ」で明らかにされ、本年中には「全国計画」の閣議決定が予定されています。

この計画の中では、「環境・ランドスケープ」の観点が重要な柱の一つとして正面に登場してきており、我々ランドスケープに関わる技術者にとって、今後積極的に関与していくことが大いに期待されるところです。

本セミナーでは、下記をポイントとして、関係分野の専門家をコメンテーターとしてお招きし、問題提起をしていただき、参加者の皆様方も含めた活発な意見交換を行います。

本年中に閣議決定が予定されている「全国計画」の概要・趣旨等を理解
ランドスケープ分野からの提言・発信に向けての論点・課題の討議
特に今後本格化する、ブロックごとの「広域地方計画」のあり方を念頭に置く

プログラム

報告・問題提起

官：国の立場から	* 田村省二（国土交通省国土計画局）
学：研究者の立場から	* 金岡省吾（富山大学地域づくり・文化支援センター）
民：コンサルタントの立場から	* 川島 保（㈱ランズ計画研究所）
	* 秋山 寛（㈱タム地域環境研究所）

ディスカッション

上記コメンテーターの他、参加者の皆様方も含めた意見交換
コーディネーター * 前澤洋一（㈱ブレック研究所）

参加者の概要

- ・ 当日参加者 27 名（当日欠席者 4 名）
- ・ うち会員 26 名（会員外 1 名：大学研究生）

参加者の評価

- ・ アンケート回答者 16 名（回収率 59%）
- ・ 結果は下記のとおり
 - * 大半が、ほぼ満足いただけた。
 - * 参加費も、ほとんどが適切あるいはもう少し高くても良いと評価
 - * 自由意見では、開催時刻を早める、テーマを身近な業務内容にあわせる、官・学からの話題に時間を多く配分する、他分野事例を多く、等の意見があった。
(アンケートの集計結果は 6 ページを参照)

報告・問題提起の概要

(1)官：国の立場から　：田村省二　氏（国土交通省国土計画局）

- ・ 国土計画制度の改革の概要（背景・ポイント・枠組み・策定体制・スケジュール）について報告いただくとともに、本年4月開催の第23回国土審議会計画部会で審議された国土形成計画（全国計画）に関する報告（素案）の構成や概要、特に、地方における主体的取組みを大きく位置づけた計画の特徴や、広域地方計画の制度等について説明いただいた。
- ・ 更に、国土計画におけるランドスケープの位置づけについては、これまでの変遷も含めて詳細に報告いただいた。
- ・ 「ランドスケープ」の用語や考え方が、現時点での報告（素案）にも記載されているが、その過程では様々な意見や議論がなされたことも紹介いただいた。

(2)学：研究者の立場から　：金岡省吾　氏（富山大学地域づくり・文化支援センター）

- ・ 日本造園学会における国土形成計画に関わる活動（国土交通省への提言、ミニフォーラム、学会誌での連載特集等）の経緯と概要を紹介いただいた。
- ・ マーケティングの視点を盛り込んだ新しい環境マネジメントを考えていく上で大きな示唆を与えられる、海外におけるパークマネジメントの理論的背景について解説いただくとともに、大学を核とした地域づくりへの取組みについて紹介いただいた。
- ・ 良好な国土の形成に向けて、今後ともランドスケープのナレッジ活用に大きく期待するとともに、中長期的には新たな領域の付加・融合の必要性を提起いただいた。

(3)民：コンサルタントの立場から　：川島　保　氏（㈱ランズ計画研究所）

- ・ 造園業界の歩みについて都市公園の整備を中心に整理した上で、自身が関わった「用地買収しない都市公園整備手法」の実例の紹介をいただいた。
- ・ 以上を踏まえつつ、我々造園コンサルタントを取り巻く今後の課題として、他分野との積極的な連携拡大、専門技術の再構築、都市公園を越えた領域への挑戦等を提起いただいた。

(4)民：コンサルタントの立場から　：秋山　寛　氏（㈱タム地域環境研究所）

- ・ 望ましい国土形成を具体化する上で、ランドスケープ技術の要諦は「人間と自然が良好な形で関わりを持って維持されている環境を生み出す技術」であり、我々ランドスケープコンサルタントの職能として、「設計（形にする技術）」「計画」（形に至る必然性の構築）「基礎」（形にするための原則・データ構築）の3点を提起いただいた。
- ・ これらの実践事例として、「中越震災みどり復興ワークキャンプ」を紹介いただいた。

ディスカッションの概要

(1) 『ガーデンアイランド』(五全総)の思想は国土形成計画に反映されているか

言葉としては残っていないが、ものの考え方については国土形成計画にも含まれている。

(2) 国土形成計画に盛り込まれる『ランドスケープ』という言葉について

『ランドスケープ』という言葉については、国土形成計画の策定委員からも「一般の人が理解しにくいのではないか」、「風土や景観と何が違うのか」といった意見も出ている。

『ランドスケープ』という言葉には人と自然の関係そのものだけでなく、人から働きかけてよりよいものにしようとする意思も含まれると考える。国土形成計画に記述されたことを評価しその定着を望む。

委員の武内先生からは「『コンピュータ』という言葉のように日本語に訳して使わずに、そのまま世界の共通語にしていければ良いのではないか」や「景観法の上位概念として『ランドスケープ』という言葉が位置づけられると良い」などの意見も頂いている。

『景観』の際にも建築学会からさまざまな出版物が出たように、国土形成計画に位置づけられたことを契機に『ランドスケープ』という用語を用いて他の業界からさまざまな提言がなされるかもしれないという議論があった。

中国・韓国も含めた東アジア圏という広いエリアで、英語表記の『LANDSCAPE』が定着し、そこから日本に広まるようにすれば浸透して行くのではないか。

普段、ランドスケープ業界の中では当たり前と思ってやっていることを世の中に発信していけば、自ずと『ランドスケープ』はこの業界の取り扱う分野なんだということが理解されるのではないか。

言葉の定義を重視するのではなく、ランドスケープがつくっている空間、システム、マネジメントなどを我々が十分に理解し、実務の中で提案、具現化していく必要がある。

ランドスケープ技術者の資格制度をつくった際に、「LA」という名前で登録しようとしたところ『ランドスケープ』は一般用語であると指摘を受け「RLA」となった経緯があり、一般用語として認識されている。

定義はしきれないものの、『ランドスケープ』という言葉が国土形成計画の重要なキーワードとして入ったことが協会や業界としては重要であったと考える。

国土形成計画素案において『ランドスケープ』への取り組みが提案されたことを評価したい。国土形成計画策定にあたり『ランドスケープ』の語が定着するよう皆で協力しよう。

(3) 国土形成計画と公園緑地の関係について

「国土“形成”計画」ではなく「国土“再生”計画」ではないかと考えている。

日本の中を再生に向けどのようにゾーニングしていくのか、土地利用計画の上に経済や生活の営みを重ね合わせ、理想的なライフスタイルをどのようにつくっていくのかがポイントになる。

「公園緑地」というのは、国土再生を進めていく上ではあくまで各論であり、国や都道府県では、公園緑地課という名称の部局の必要性はないのではないかと考える。

(4) ランドスケープ界が目指すべき目標について

IFLA の大会が日本で開催された際に「日本の造園」という本がまとめられた。その中でこれからの日本の造園のあり方について展望をもって書かれた。

「作品化された造園」、「アノニマスな造園」に分けて紹介されており、これまでの作品化された造園への取り組みから、アノニマスな造園(ランドスケープ)に向かっていくことが書かれていたが、その後の造園界は、そのビジョンの実現に失敗したのではないかと考える。その意味でも当時目指していたビジョンを達成できるようにしていく必要があるのではないかと考える。

国土形成の最終的な目的は、地域経済の活性化であり、ビジュアルランドスケープ的な発想ではやっていけない。その中で我々に何が出来るかを考える必要がある。しかし、我々の業界は現状認識の速度が遅く対応も遅れている点が課題である。

社会のニーズは大きく変わっており、『ランドスケープ』という言葉は社会が決めていくもので、技術や集団が定義しても意味がない。

先週上海を訪問したが、すさまじい勢いで民間都市開発が進行中である。但しかつての日本のようなスプロールではなく、各開発者は営業上の理由から緑地、緑化などランドスケープの構築に競争で取り組んでいる。日本でも再開発等にランドスケープを配慮しないとアジアの中で遅れをとる。

(5) 『ランドスケープ』の普及について

『ランドスケープ』という言葉の認知度が低いという話がでたが、その普及のために出来る行政の手伝いは、CLA としても積極的にやっていきたいと考えている。

(6) 国土形成計画における都市と地方の適正化について

国土形成計画においても「国土の均衡ある発展」というキーワードはある。

具体的方策としては、地域活性化のための交付金制度を今年度から立ち上げており、制度と財政的支援の枠組みのセットで進める予定である。

(7) 全国計画[中央]と広域地方計画[地方]の関係性について(質問)

中央集権国家から地方分権国家にシステムや価値観が大きく変わっており、かつてのような霞ヶ関からの指令・マニュアルを待つという姿勢ではやっていけない。

国土形成計画の全国計画に答えが書いてあるわけではなく、地方が独自に考えなければならない。その意味でこれまでの全総とはまったく違いものである。

(8) まとめ(総括)

既存のナレッジを自信を持って発信していく必要があり、また、外の世界に発信できるツールにしていく必要がある。

例えば各地で行われているプロジェクトをシートにまとめていくことなど具体的な活動に移していく必要があると考える。

今後は、ここに参加された方々が自ら企画を出して、勉強会などを実施していくような動きを期待している。

CLA 大塚会長の挨拶



セミナー会場の風景



アンケート集計結果

1. 本日のセミナーはどこでお知りになりましたか？

CLA 事務局便りを見た	6	(37.5%)
所属する会社で知った	9	(56.3%)
知り合いから聞いた	1	(6.3%)

2. 本日のセミナーの内容に、満足いただけましたか？

満足	4	(25.0%)
やや満足	10	(62.5%)
やや不満	0	
不満	0	
どれでもない	2	(12.5%)

「 やや不満」「 不満」にご回答いただいた方はその理由

・少し焦点がぼけたか：50代

3. 本日のセミナーの参加費はいかがでしょう？

高い	0	
やや高い	0	
適切	13	(81.3%)
やや安い	2	(13%)
安い	1	(6.3%)

4. その他、本日のセミナーに関するご意見・ご希望

- ・5時頃からはじめた方が良いのでは？（8時には終了）：60代
- ・既に業界で取り組んだ分野（緑の基本計画・景観計画等）の振り返りなどをテーマにしたらどうか？：30代
- ・次回も期待している：30代
- ・時間がやはり足りない、もっと若い方の発言が出やすいようになると良い：60代
- ・大変勉強になった。国土総合計画から国土形成計画へと新しい可能性を感じた：20代
- ・会員が多いので、時間配分を学>官>民として欲しい。他分野の事例をもっと紹介して欲しい：20代
- ・勉強不足で話の大枠ぐらいしかとらえられなかったが、大変勉強になった：20代

回答者の属性

性別：男性（10） 女性（6）

年齢：20代（5） 30代（5） 40代（1） 50代（3） 60代（2）